

# 藤井市政の転換、小池えつ子市議候補勝利を!

日本共産党5議席 = 市議会第一党めざす新春のつどい

2015年

市民の声が生きる、くらしを守る  
取手 市政へ 市民の 共同で



フォークソングシンガーの橋本のぶよさんと会場参加者と一緒に。

1月24日、取手市立福祉会館で、2015年日本共産党新春のつどいが150人余の参加で開かれました。

未来をひらく新しい政治をつくるため、4月に行われる市長選で藤井市政の転換、市議会補欠選挙で小池えつ子市議予定候補の必勝を期す、確信と展望をつかむつどいとなりました。

## 来賓のあいさつ

佐藤隆治市議会議員は、「共産党の皆さんにはお世話になっている、定数2で勝ち抜き、5人になることを期待する」「超党派で議会運営をはかりたい」と互いの協力と集いへの祝意が述べられました。

倉持光男市議会議員は、「共産党は、一致点での協力を大事にしている」と共同行動を評価。「定数2の市議補選で議席をとるには昨年の県議選以上の取り組みが必要だ」と奮闘への期待が寄せられました。

丸山敏郎さんは、「衆院選での大躍進、上野県議の誕生、暮らしと平和を守る運動を進めるうえで、大変頼もしい。小池えつ子さん当選に頑張りましょう」と連帯のあいさつが送られました。

つどいは、各界の方々も参加され、佐藤隆治市議会議員、倉持光男市議、くらしと平和を守るネットワーク取手代表の丸山敏郎さんが来賓のあいさつ。

上野県議会議員は、県議としての新たな決意を述べ、さっそく米ノ井の違法堆積土砂問題で県と交渉、県も改善に向けて動き始めたこと等を報告しました。

また、小池えつ子さんの元職場で看護師長を勤める安蔵朱美さんが、小池さんの紹介と勝利への訴えを行いました。

あいさつに立った小池えつ子市議補欠選予定候補は、医療・介護の現場で働いてきた立場からも「いのちの平等というまっすぐな人権意識をもって、市民のための市政に力を尽くしたい。」と決意を述べました。

## 対話を大事に真摯に向きあいます

### 小池えつ子

党南部地区医療・福祉対策室長



小池えつ子市議補欠選挙予定候補

取手の日本共産党事務所にはたくさんのご意見や相談が寄せられます。

先日は、ご主人の訪問診療(往診)の相談の電話がありました。かかりつけの診療所への相談はしたけれど、対応できないとのこと

で、現在の状況やご希望を伺って、私が診療所で働いていた時の対応をふまえて、応えられる範囲でお話をさせていただきました。直接的な援助はできませんでしたが、困った時の医療機関への相談方法などを伝えました。

今の私には微力の対応でしたが、これからも、相手のお話をよく聴くことを大事に真摯に向き合っていきたいと思います。



女性後援会による「安倍暴走政治ストップ・白波5人女」

2部では、日本共産党女性後援会による「安倍暴走政治ストップ・白波5人女」と題する寸劇。フォークソングシンガーの橋本のぶよさんによる歌と演奏がありました。

## 市民の声を大事に・市民の願い託せる人を

### 4月市長選

アベノミクスによる格差社会が広がり、更には消費税増税と社会保障の切り下げで、市民のくらしが深刻になっています。こうした下、市民のくらしを守るのが地方自治体の役割です。しかし2期8年の藤井市政は、市民のくらしや保育所・学校を減らし、道路整備などは後回し、その一方で多くの市民の反対を押し切って西口開発等に莫大な税金投入を続けています。市民をないがしろにする市政運営でなく、市民の声を大事にし市民のくらし第一に考え、託せる市長に変えていこうではありませんか。日本共産党は、広範なみなさんと力を合わせ頑張ります。

## 明るい取手

2015年2月1日号

発行: 日本共産党取手市委員会

◆日本共産党の見解を紹介します。



# 通常国会始まる 本格論戦がスタート

## 躍進した国会での力 フルに生かし全力を尽くします

1月26日、国会が開幕、会期は6月24日までの150日間です。昨年の総選挙で21人に躍進した日本共産党は衆参合わせ32人。同日、獲得した議案提案権を行使し、政党助成金廃止法案を衆院に提出しました。党議員団総会で志位委員長は、「国民の声、国民の願いを国会に届ける代弁者として頑張りたい」と表明。その上で、先の総選挙で訴えた「安倍政治暴走ストップ、日本の政治の5つの転換」がそのまま国政の大争点になること、戦後70年にあたって憲法問題、歴史問題、核兵器問題の3つの大問題で、逆流を打ち破り、未来を拓く新しい政治を起こすこと、政党助成金と小選挙区制という、日本の政治を劣化・墮落させている2つの元凶を正し、今国会を戦い抜くことなどを提起しました。

いよいよ、国会での本格論戦がスタートしました。

## 安倍政治の害悪ギッシリの来年度予算案

来年度の国家予算案（96兆3420億円）が閣議決定されました。過去最大規模となるその中身は、国民が切望する介護、年金など社会保障給付費を軒なみ削減する一方、大企業減税や、軍事費(5兆円)拡大をさらにおし進める内容です。労働者をやめさせると補助金を出しリストウ支援を進める「労働移動支援助成金を」を増額するなど、こんな事まで盛り込んでいます。

日本共産党は暮らしと平和を守るために、今国会に予算の抜本的な組み替えを提起し、全力を尽くします。



上野たかし県議会議員

### 上野たかしの活動日記

## 県民の願い託された議員バッジ

県民の願いや怒りがたくさん詰まった議員バッジを着けてもらう初登庁。多くの県民から花束もいただきました。

すぐに県生活環境部の廃棄物対策課と、米ノ井に住む住民と関戸勇市議会議員と私は、残土問題で話し合いを行い、県・市・住民・業者の「4者会談」を県の責任で行うことが決まりました。

### 初議会(臨時)で議会改革申し入れ

1月16日、臨時議会が開かれ、常任委員会委員、議会運営委員会委員を選任しました。日本共産党の山中たい子議員(つくば)は防災環境商工委員会委員に、江尻加那議員(水戸)は保健福祉委員会委員と議会運営委員会委員に、私、上野高志は総務企画委員会委員にそれぞれ選任されました。共産党議員が議会運営委員会委員に選任されたのは16年ぶりのことです。

初めて本会議場の議員席に着くと「よーし。県民の声をこの場所で必ず届けるぞ」と感無量の思いが湧いてきました。新議長に選出された細谷典幸さんに26項目の議会改善の申し入れを行いました。「一般質問の年40名の制限をやめ、質問権を保障すること」「聴覚障害者や子ども連れにも傍聴しやすい県議会にすること」などを求めました。

毎週水曜日に控室で行っている党議員団会議では、「東海第2原発を視察しよう」「暮らし・福祉、雇用、農業など選挙で出された要求実現へ、申し入れや署名運動などががんばろう」と議論を重ねています。正直、まだまだ慣れない議員活動ですがどうぞよろしくをお願いします。



細谷新議長(右)に申し入れる(左から)上野、江尻、山中の3県議

# 取手でも「廃止」を求める署名始まる

## 日本共産党「政党助成金廃止法案」国会提出

今年は「政治改革」の名で政党助成金が導入施行されて20年になります。1995年の導入以来6311億円もの助成金がばらまかれました。この間、助成金目当ての政党の離合集散が繰り返され、60近くの政党が誕生、受け取った政党が43、そのうち消滅した政党が33党に及びました。理念も政策もない、ただただ助成金が欲しい。その一念だけで離合集散をくりかえす、これはあまりにも浅ましく恥ずかしい政治です。日本共産党は一貫してこの受取を拒否してきました。26日から始まった通常国会冒頭に、日本共産党は政治を劣化墮落させる政党助成金廃止法案を提出しました。この法案は昨年暮れの総選挙で強く訴えた公約の一つであり、議案提出権を出せる人数に躍進したことによるものです。

取手では、1月27日、取手駅および藤代駅でこの署名行動を行いました。多くの方から「いよいよ始まったね」と賛同の署名が寄せられました。引き続きとりくみます。ご協力をお願いします。



僕たちの税金も「あっちの党」にまでいっちゃうのか消費税もいっちゃうの？  
署名を集める上野たかし県議・小池えつ子市議補選予定候補・遠山市議ら(藤代駅で)

原発ゼロ「金曜日行動」午後6時・取手駅前。2月8日(日)「『戦争する国』をゆるさない取手大行動」